

会議名	坂出市まちづくり基本構想審議会 第1回分科会
開催日時	平成27年8月25日(火) 午後6時～8時
開催場所	坂出市本庁舎3階委員会室
出席委員	高塚 創(会長) , 國時 忠能 , 木原 光治 , 土井 智司 , 中橋 恵美子 , 大林 貞治 , 三野 八重子

会議の経過および発言要旨

1. 開会

(事務局より、坂出市地方労働組合連盟 会長 林美模 委員が病気療養のため、今後は大林貞治 同事務局長が代理出席する旨の報告)

2. 職務代理者の指名

(國時忠能委員を職務代理者として指名)

3. 審議

(1) 坂出市人口ビジョン骨子案について

●事務局

(説明)

●会長

骨子案の最終ページに人口の将来展望があり、パターン③が最も減少を抑制した目標になっているが、坂出独自のパターン④を検討する上で、さらにひとつ上の社会増を目指す目標を設定するのかを議論したい。

●委員

事務局の説明の中で「人口が昭和51年をピークに下がった」と言われたが、市としてなぜ下がったのか分析はされているのか。

●事務局

要因として、景気の動向に左右された点がある。

線引きの問題が非常に大きな要因であり、バブルでまちなかの地価が上がり、まちなかに居住することが難しくなった。線引きのかかっている区域に住居を求め、団塊世代の少し下の世代が転出し、結果的に少子化が進んだと考えられる。

平成16年に線引きが廃止され、現在、坂出市の加茂地区、林田地区では人口が増加傾向にある。川津地区も増加傾向にあり、その状況をどう考えていくは検討が必要だと思う。まちなかのマンションも若干の社会増に繋がっている。

無秩序に開発を進め、郊外に広げれば良いということではないが、そのことも含め議論が必要だと思う。

●委員

線引きは昭和46年に行われているので、人口増となるピークが昭和51年となるまで5年間のタイムラグが発生している。5年後に影響が出たということなのか。

線引きが原因なら、もっと早く減少の影響が出たのではないか。

●事務局

もちろん、線引きだけが原因ではないものと考えられる。

●会長

過去に坂出市の人口について分析したことがあり、周辺の町や市の変化を見ると、線引きされて以降、都市開発の線がないエリアに人口が増えている。1970年当時は周辺のまちと比較すると、坂出市が一番人口が多かったが、その後に抜かれている。

すべてではないが、当時の線引きの影響は少なからずあったと考えられる。他の町や市が行っていない時期に坂出市は調整区域を多く設定したこともあり、タイミングも悪かった。

●委員

人口ピラミッドで表すと危機的な状況だと思う。

ただ、可能性があるなと思ったのは、4ページの人口変化の推移で30代は若干プラスになっている。子育て世代が地元に戻ろうという動きがある。9ページを見ても、ワークライフバランスを考えれば、仕事が終わってすぐに子どもを保育園に迎えにいける環境があるのにPR不足だと思う。

22ページの女性の労働力率では、子育て中は離職している人が多い。福井県は少子化が回復傾向にある中で、同居が2割弱、近居を含めると8割～9割になる。身内が近くに住んで、何かあればすぐに駆けつけることができるのは非常に魅力だと思う。

今後、坂出をPRするならば、親が坂出に住んでいれば子どもが近くに住めるように空き家リフォームに対して助成をするなど、そういった子育て世代が暮らしやすい、丸亀や宇多津よりも「住みやすい」というインパクトを持ってPRをしていかないと、パターン④のグラフは出てこない。勢いがビジョンにも戦略にもかなり欠けている。同じ様な施策ではなく、ガツンとPRしていかなければならない。

●会長

職住近接、坂出のアクセスの良さ、良いところをアピールしていく。総合戦略も今のままでは全く訴えるものがない。良いところをもっとフォーカスして、坂出の良さを伸ばすことでパターン④が出てくるのではないかな。

●委員

そもそもなぜ、丸亀、宇多津なのか。丸亀は公共料金が安く、住むなら丸亀というイメージを持っている人もいた。

分析して、他市町の良いところを取っていく。坂出にも良いところがあるので、それをプラス材料にしていく。アクセスも良いのになぜ建設業者は家を建てないのか。現在、調査していることがあるのであれば、聞かせてほしい。

●事務局

結婚した職員に話を聞いたが、手頃な広さと家賃を比較すると、坂出は新婚世帯に手頃な物件が少ない。また、周辺の方が商業施設等もあり、市外へ出ていくことが多い。現在、新婚世帯に家賃補助をおこなっており、若干効果も出ている。

●委員

9ページの流入・流出の状況を変えていくには、今住んでいる人がより住みたい、住み続けたいと思い、他市町に住んでいる人も住もうという気になるような対策を検討することが一番だと思う。住みやすさにお金を徹底的につぎ込むべきである。

●委員

私は大阪生まれ大阪育ちで、主人が坂出の出身なので戻ってきた。上の子が2歳になるまで大阪のマンションに核家族で暮らしていた。坂出で主人の家族と同居を始めたが、子育ての環境としては大阪より坂出がいいなと感じている。子どもの成長に同居や自然が多くあるのは良いと思う。

坂出は「ちょっと便利な田舎」というイメージで、そこが売りだと思う。その良さをもっとアピールできないかと思う。

気になるのはお年寄りで、お年寄りだけの世帯が増えており、空き家も増えている。お年寄りだけで暮らすのは危険なことであり、寂しいことでもある。二世帯、三世帯で住むことは人間を育てていく環境には良いことだと思うので、そういった家庭にはリフォーム補助をしていけたら良いと思う。また、23ページの魅力度の分析をきちんとして進めていけば良いと思う。

●委員

子育て世帯をどう増やすかが課題だと思う。坂出は小中高が充実しており、子育て世代の暮らせる環境や住宅もあるが、それだけを考えても課題解決に繋がらないので、総合計画でのまちづくりと絡めて、まちの魅力を上げていく必要がある。

若い人が「絶対坂出に住みたい」と思うようなニーズが出てくれば良いのではないかな。高松市内は土地の値段が高すぎて購入できず、まちの中心から離れないと家を建てられない状況にある。便利な坂出駅周辺のマンションから電車で高松へアクセスした場合、住環境は高松市内と比べても遜色がないと思うので、可能性が出てくるのではないかな。

●委員

例えば、鳥取県にスターバックスができたが、坂出は若者の文化に見向きもされていないまちだと思う。坂出で遊ぶ若者はほとんどいない。若者にとっては楽しいまちではない。若者を引き付ける魅力をどこにつくっていくか検討する必要がある。

●会長

新聞にバル本に関する記事が掲載されていた。若者が中心となり、坂出の隠れた名店などのクーポンをつけた本を販売するようである。

そういったおもしろい取り組みをしているので、若いパワーを活用して、若い人が住みたくなるようなまちをつくっていく。そこが坂出市には欠けていると思う。

●委員

人口ビジョンの表紙の1ページの趣旨が、言い訳めいたものになっている。坂出市の課題は何か、どういう傾向にあるのか、それを全員が把握する。役所がやるのではなく、まちの人達が危機感を持って取り組むために人口ビジョンを作る、という意思表示を1ページのどこかに書いたほうが良い。一人ひとりが意識をして取り組まなければいけないと思える言葉をどこかに入れておくべきだ。

先程のバル本だけでなく、楽市楽座や毎週第4土曜の土曜デーなど、商工会議所の若い人が中心になって取組が進められているが、その結果、商店街の衰退が止まったかというところではなく、空き店舗が今もどんどん増えている状況である。

「若い人が取り組み、その日だけでも賑わいが生まれた」、「若い人も頑張っている」だからこそ自分達も頑張らなければと思い、覚悟を決めて取り組むような店主がいない。次世代の担い手がいないのであれば、店舗をリフォームして、安い金額で店舗を貸し出すなど、そういったことをしてでも賑わいをつくり、商店街をなくしてはいけないと思っている人がいない。衰退していく坂出に対して、大人があきらめている。

そういったことも踏まえて、人口ビジョンに危機意識を持たせるような文言や坂出市の覚悟を示すような内容を書き込むべきではないか。

●委員

事務局の説明の中で「働くまちだが、住むまちではない」という表現があったが、すごく分かりやすい。マニュアル通りではなく、そういった分かりやすい文言を出すだけでも違うと思う。

(2) 坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案について

●事務局

(説明)

●委員

現状の案では、具体的な施策を全部取り払ったときに、どこのまちの計画かさっぱり分からない。

KPIの数値目標も、既にある坂出市の計画から持ってきたものになっている。手が届く範囲の数値をKPIとして持ってきている。挑戦してやっ払いこうという数値や各課が協議して目標設定したKPIは見当たらない。もう少し力を入れていただきたい。

●会長

坂出市は、良くも悪くも特徴的なまちだと思う。人口ビジョンの議論で悪いところも明らかになっているので、そこにフォーカスすべき。書いてある内容はそれぞれ悪くない。それをどのように見せるかという工夫をすべきである。

●委員

ただ、この分科会のようにフランクに議論をする場をつくってくれたのはありがたいと思っている。

●委員

人口ビジョンでも話が出たが、PR不足が大きいと思う。小豆島のオリーブは、量は取れていないがPRがうまい。

坂出の金時にんじん等の商品をもっと大事にイメージ戦略をすると、農家の人が儲かると思う。イメージ戦略で坂出市を盛り上げていけないのではないかな。

●委員

今治タオルは今でこそ有名だが、当時はつぶれかかった産業だった。企業が自治体とタッグを組んで、ブランド化の戦略を行った結果、全国ブランドになった。

そういった意味で、上手くやれば戦略的にやっ払いけるのではないかな。坂出の弱みをどう変えていくのかが大きな目的ではないかな。

●委員

高松市の栗林地区では子どもが増えていて、幼稚園、小中高も周りにあり、マンションも多く人も集まっているが、子どもを育てる環境として本当に良いのか疑問に思う。坂出の人は、坂出の本当の良さを分かっているのかなとも思う。

駅前を都市化しても、みんな丸亀に買い物に行くと思う。何をしたら坂出の魅力が伝わり、人が集まるのか。同じ様なことをしても対抗できない。坂出の良さをもっとみんなで出し合うべき。

ゆったり子育てしながら、仕事もできる環境づくりをする。チームコスモスのメンバーも仕事をしながら子育てをしている。子育てしながら仕事ができる環境、職場、企業が坂出にはあると企業側もアピールし、そういう企業づくりの協力も得られたら良いと思う。

●委員

進めていくのは役所だけではない。住んでいる人、活動している企業がタッグを組んで進めていかないといけない。

最近女性の力が再認識されてきているので、子育て世代の女性に、企業の社長がいかに理解を示して、どう取り組んでいくか。積極的に取り組む企業も多くあるので、そこをうまくPRしてタッグを組んでいけたら良いと思う。

●委員

具体的な戦略になると、メリハリとオリジナリティがほしい。坂出はJRがあり、旧国道、浜街道、工業地帯、瀬戸大橋、国立公園、高速道路、山並みがある。こんなにコンパクトに揃っている市はない。これを売りにして計画を作してほしい。

昼間に駅前を通ると、市民広場に誰一人いない。もっと使い勝手が良いようにならないか。駅の周りに高校が3つもあるので、生徒を市民広場に集め、サテライト授業を行うことも考えられる。

市民ギャラリーもあるので、いつも誰かが居るといった状況をつくるべきではないか。高校生の元気を利用するべきだ。部活、授業、サークルができる場を提供する。横の連携を使い、計画を作ることで、オリジナリティも出てくると思う。工夫のある計画にしてほしい。

●会長

坂出商業高校が、文化祭でまちに出てきている。冬のクリスマスにもイベントを行っている。ただ、あまり知られていないのが現状である。

●委員

高校が3つあるので、毎週イベントもできると思う。高校生がいる賑やかなまちになり、お年寄り、地域の人達のふれあいの場にもなる。人は、ふれあいがあるまちに住みたくなる。

各課単位で計画をつくるのではなく、課と課が連携して計画を考えると、特徴が出てくると思う。

●会長

「働くまちだが、住むまちではない」、現状はそうなっていると思う。住みたくなるまちを目指すべき。坂出市はサービス業が弱い、人口が増えてくればサービス業も貼りついてくる。昼間人口は高いので、住む人を増やすために優先的な戦略は何かを考え、組み直せば良くなるのではないかと。

●委員

坂出は、企業のまちで成功していると思う。ただ、労働者はパートがメインだと思うので、正規職員として安定して坂出市に住んでもらえるような企業を誘致するのはもちろん、働く人が坂出に住まないという意味がないので、社員住宅を含めての誘致をするビジョンを持ってもらいたい。

●委員

さかいでまろの取組や広報が見やすくなったこと、病院も新しくなったことなど、良いところを伸ばして行くことが大切である。

坂出の強みの見える化を行いPRしていくことが必要であり、ふるさとに愛着を持つような若い人に帰ってきてもらうための戦略が必要だと思う。番の州公園も良くなったが、売り込み方はもう少し力を入れるべきだと思う。

例えば、坂出では沙弥や瀬居などの島に車で行けることは観光の魅力であり、時間を気にしないで日帰りもできるので、そこをPRポイントにしてはどうか。

坂出には大学がないが、附属の幼小中学校があるため、そういったこともPRポイントとして、定住してもらえるような工夫を行ってはどうか。

●会長

様々なアイデアが出されたが、何を最重要課題とするのか。それを基に再編してもらいたい。

坂出は、様々な資源がコンパクトに集まっているとの意見もあった。もちろん、新たな人を集めていくのは難しいかもしれないが、人口ビジョンのパターン④を検討していく上で、何人上積みしていくのか。香川県の内容も参考にしながら検討していければ良いのではないか。

現状案であれば、坂出市はあまりやる気がないと思われる。行政だけでなく、市民も一緒になって強気になり、パターン④でもっと人口を増やす目標を設定してはどうか。

●委員

25ページの将来推計で、老年人口が平成32年をピークに下降するとあるが、その年を境に医療施設が余っていくのではないか。

また、その頃になれば団塊の世代を対象に坂出に帰ってきてもらって、老後を過ごしてもらおうようにして、年に何度かここに来てもらえる人を増やしていければ良いのではないか。

●委員

あらゆる世代が集まれるところとして、周辺に対してPRすることで、メリハリが出るのではないか。

●委員

例として、乳児院が豊島から坂出に移転してからは、面会や週末に自宅に戻る人が増えている。地続きになったことで、会いに行こうという動機につながっていると考えられる。

日本創成会議において介護の必要な人たちを地方に送るといった議論があるが、例えば家族が東京に移り住んでいて、介護だけは坂出で行うのでは家族バラバラになるので、団塊の人たちの介護が必要になったときに、それを機に家族みんなで移り住めるようにしていくのが良いと思う。そのためには、雇用先や住居が必要であるため、それらに対応でき

る相談窓口を設けて、都会より豊かな暮らしを坂出でできることを伝えていってはどうか。両親の介護もでき、働き続けられる環境を見える化していくことを全国に先駆けて進めていくことで、まちの強みに繋げていけるのではないか。

(3) その他

●事務局

本日頂いた意見を反映し、素案として提示したい。次回は9月中に開催予定とする。

4. 閉会